

---

## 第 25 回アジア証券人フォーラム (ASF) 年次総会について

---

2020 年 11 月 27 日

---

去る 11 月 27 日 (金) に、第 25 回アジア証券人フォーラム (Asia Securities Forum : ASF) 年次総会が日本証券業協会の主催によりオンラインで開催された。

本フォーラムは、本協会の提唱により、アジア太平洋地域における証券業界の交流と証券市場の発展に寄与することを目的に、1995 年に発足したものである。

以下に今回の年次総会の概要を掲載する。

----- ○ ----- ○ -----

### 1) 開催日時

2020 年 11 月 27 日 (金) 15 時～17 時 (日本時間)

### 2) 開催場所 Zoom によるオンライン開催

### 3) 参加者 22 機関、約 80 名

#### 【参考】参加機関一覧

アジア	アジア証券業金融市場協会 (ASIFMA)、
	国際資本市場協会 (ICMA)
豪州	豪州金融市場協会 (AFMA)
	証券・金融助言業協会 (SAFAA)
中国	中国証券業協会 (SAC)
台湾	台湾証券業協会 (CTSA)
香港	香港証券業協会 (HKSA)
インド	ボンベイ証券取引所参加者協会 (BBF)
日本	日本証券業協会 (JSDA)
韓国	韓国金融投資協会 (KOFIA)
マレーシア	マレーシア証券業協会 (ASCM)
モンゴル	モンゴル証券業協会 (MASD)
ニュージーランド	ニュージーランド金融市場協会 (NZFMA)
ロシア	ロシア全国金融協会 (NFA)
タイ	タイ証券業協会 (ASCO) タイ債券市場協会(ThaiBMA)
スリランカ	コロンボ証券仲介者協会 (CSBA)
トルコ	トルコ資本市場協会 (TCMA)

ベトナム	ベトナム証券業協会 (VASB)、 ベトナム債券市場協会 (VBMA)
イラン	イラン機関投資家協会 (IIIA) (新規加入)
シンガポール	シンガポール証券業協会 (SAS)

#### 4) 今回の総会のポイント

- ◆ 当初、インドでボンベイ証券取引所参加者協会 (BBF) の主催による開催を想定していたが、コロナによる渡航制限等の影響により、ASF 事務局である本協会主催により Zoom によるオンラインにて開催した。
- ◆ 冒頭、本協会鈴木会長より開会挨拶。その後、前回年次総会以降に加入した、イラン機関投資家協会 (IIIA) を紹介した (IIIA の加入で加入機関は全 26 機関)。
- ◆ 新型コロナウイルス感染症への対応として、各国の証券市場/証券業協会において様々な方策・措置が図られ/検討されているところ、本年 4 月、ASF メンバー内で新型コロナウイルス感染症に係る各国/地域の対応について情報交換をするオンラインフォーラム(メンバー限りのウェブ掲示板)を創設した。本年次総会では、ASF 事務局である本協会より同オンラインフォーラムで交換された意見の概要について簡単に報告した。その後、ユニークな取組みとして、タイ債券市場協会 (ThaiBMA) 及びアジア証券業金融市場協会 (ASIFMA) よりそれぞれの機関の取組みについて報告してもらい、意見交換を行った。
- ◆ 昨年 8 月、ASF メンバー機関及びメンバー機関の所在する地域における ESG サステナブルファイナンス市場の進展等についてサーベイを実施し、サーベイ結果を ASF ウェブサイトにて公表した。今年度は ASF メンバー機関及び地域における SDGs の取組みについてサーベイを実施し、本年次総会では、ASF 事務局である本協会よりサーベイの結果を報告した。その後、国際資本市場協会 (ICMA) とニュージーランド金融市場協会 (NZFMA) よりそれぞれの機関の取組みについて報告してもらい、意見交換を行った。
- ◆ ASF 事務局である本協会より、今後 3 年間の年次総会の開催予定の報告を行い、その後 2021 年度のホスト予定であるボンベイ証券取引所参加者協会 (BBF) より 2021 年度総会の予定について報告を受けた。
- ◆ また、ASF 事務局である本協会より、今後予定している、ASF ウェブサイトのリニューアル (オンラインでの情報交換のための掲示板の設置を含む)、ASF 東京ラウンドテーブル (ASFTRT) の開催予定について報告を行った。

主なセッションの概要は、以下のとおり。

## 1. コロナへの対応

### オンラインフォーラムの設置

- 本年4月に、コロナに対する各メンバー/地域における対応についてオンラインフォーラムを設置し、ASFメンバーにおいて情報交換を実施してきた。

図1 オンラインフォーラムのイメージ



同フォーラムでは、ASFの12機関が新型コロナウイルスの対応について意見交換を実施

### ASFメンバー等における新型コロナウイルスへの対応の概要

- 本年次総会ではオンラインフォーラムで情報共有されたASFメンバー等における新型コロナウイルスへの対応の概要について、ASF事務局より以下のとおり報告した。
- (1) ASFメンバーにおける業務運営方法の変更：
- リモートワークの実施、コロナ対応専用のウェブページの設置、イベント・会議の実開催のキャンセル及びオンラインによる開催
  - Thai BMAでは、政府のコロナ禍における外出禁止や通勤ラッシュ回避等への対応の一環として、債券の取引/価格情報の報告カットオフタイム（16時→15時）及び協会の公表時間（17時→16時）の前倒しを実施。また、タイでは、法改正により取締役会、債権者集会及び株主総会についてオンラインでの完全実施を許容
- (2) 規制当局等への提言：
- 業界の意見を国際基準設定主体や各国/地域規制当局へ提言。結果、以下の基準・規制の見直しが実施されたケースあり。
    - 金融サービス/ブローカー業を生活・経済維持に不可欠な業務の提供者として認定  
当局における監督の柔軟化（金融機関等の報告書類の提出期限延期、（貸出し拡大のため）資本規制等見直し、業界プロジェクト遅延の許容等）
    - 本人確認書類の電子コピーによる受入れ

(3) 関係機関とのネットワークの強化：

- 多くの機関及び地域において、規制当局、他業界及び他国関係機関との間でコロナの影響により生じた課題への対応について情報交換・連携を強化。
- ASIFMA では、協会員に対して各社の役職員感染時対応、感染防止に係る措置及び関連する対応等についてサーベイを実施するなどして、情報交換を強化、業界における対応の点検を行った。

(4) ニューノーマルに向けた業界の変革：

- コロナの影響を踏まえて自主規制規則やガイドラインを適宜見直し
- 例えば、ICMA ではコロナ債のガイダンスの提供、本年6月、ソーシャルボンド原則の改正を実施。
- ニューノーマルに向けて書類・業務電子化等の業界の変革を推進

### 意見交換

ASF メンバー2 機関より両機関の取組みについて報告があった後、大要以下のとおり意見交換を実施した。

- コロナ禍、株式市場の取引量が大幅拡大し、新興市場等においては急騰が見られ、個人投資家等による投機的な取引が進んでいると思われる。株式取引のオンライン化が大きく進んでいたことが背景にあり、オンライン業者におけるミレニアル世代等の顧客・取引が大きく増加している。株式の取次ぎのビジネスという観点だけ見れば、証券業界の同ビジネスは活況を呈していると言えるが、それによって生じる周辺の課題には注視していく必要がある。

(マレーシア ASCM、インド BBF、韓国 KOFIA、シンガポール SAS、トルコ TCMA)

- なお、ロックダウン下、外出ができず、一部新規顧客の口座開設手続きについては、混乱も生じたが、現在は正常化している (シンガポール SAS)。
- コロナ禍、取引量が個人投資家を中心に大きく拡大したが、伴って、取引所等における取引システムのキャパシティが逼迫する課題が生じた (豪州 AFMA)。
- 多くの市場で株価が高値を更新するという状況になっている。量的緩和の金融政策がとられる中、長期的に株式・債券市場にどのような影響を及ぼすか、関係者で注視していく必要がある

(豪州 AFMA、ニュージーランド NZFMA)。

- 今後生じるであろう問題や今回の経験を踏まえた新たな危機への対応も考えていく必要がある。例えば、銀行の不良債権の取扱い、MMF 等における流動性の問題等は、IOSCO 等の議論も踏まえつつ、業界としてもその対応を注視していく必要がある。(アジア ASIFMA)

## 2. 2020年度SDGsサーベイの結果

- 本年次総会に先立ち、ASFメンバー機関／各機関のメンバーにおけるSDGsに係る取組みについてのサーベイを実施した。
- 今回は、ASFメンバー各機関等におけるSDGsに係る取組みを紹介し合い、グッドプラクティスを共有し、各機関のSDGsに係る今後の取組みに役立て、ASFとしてSDGsを推進していくことを目的として実施した。

※前回のサーベイ項目であったサステナブルファイナンスの状況（ESG債の発行データ等）及び国際的なイニシアティブへの参加状況は他機関及び情報ベンダー等において既に提供されている。よって、ASFのユニークなサーベイとして、上記趣旨の下、ASFメンバー機関及び各機関のメンバー（証券会社等）の取組み状況を調査し、その状況を共有することにした。

- 本年次総会では同サーベイの結果をASF事務局より報告して、意見交換を実施した（サーベイ結果の概要は別紙1のとおり）。

## 3. 2021年～24年までの年次総会の開催予定

- 今後4年度の年次総会についてASF事務局より以下のとおり報告した。

開催年	主催機関	開催地
2021	ボンベイ証券取引所参加者協会（BBF）	インド ムンバイ
2022	モンゴル証券業協会（MASD）	モンゴル
2023	ベトナム債券市場協会（VBMA）	ベトナム
2024	ニュージーランド金融市場協会（NZFMA）	ニュージーランド

## 4. その他

### ASFウェブサイトのリニューアル

- 2009年、ASFではウェブサイトを設置。設置より10年超経過したこと、コロナ禍で関係機関におけるオンラインでのタイムリーな情報共有・連携を図る重要性が増していることを踏まえ、ASFウェブサイトのリニューアルとともに、メンバー間の情報交換を促進するため、同ウェブサイト内にメンバー専用エリア等に掲示板機能を設け、ウェブサイトを活用したメンバー間の情報共有・交換の促進を図るため作業を進めていることをASF事務局より報告した。

### 次回ASF東京ラウンドテーブル

- 次回ASF東京ラウンドテーブルについてASF事務局より大要以下の通り報告した
  - ・ 例年、東京にASFのメンバーから参加希望者を招く形でASF東京ラウンドテーブル（ASFTRT）を開催している。
  - ・ 本年度は、コロナ禍の渡航制限等を踏まえ、例年どおりの実開催は行わない。その代わりに、オンラインイベント「ASF東京ラウンドテーブル・リユニオン」（仮称）を開

催する。

- 趣旨は、過去に ASFTRT に参加した者たちに、当時の仲間たちとの再会、他の年の参加者とのネットワークづくり及び彼らと共に関心の高いトピックについて学び合う場を提供することである。
- 開催時期は2月又は3月を予定。



# ASFメンバーのSDGsに係る取り組み

## 事例集

### 概要



ASFメンバーの25機関のうち、

# 17

**機関がSDGsに係る取り組みを実施**

(回答ベース、約68%)

ASIFMA, ICMA, AFMA, CTSA, BBF, APEI, JSDA, KOFIA, ASCM, MASD, NZFMA, NFA, SAS, ASCO, ThaiBMA, TCMA, 及びVASBから回答があった

### 地域別



ASFメンバーの20国・法域のうち、

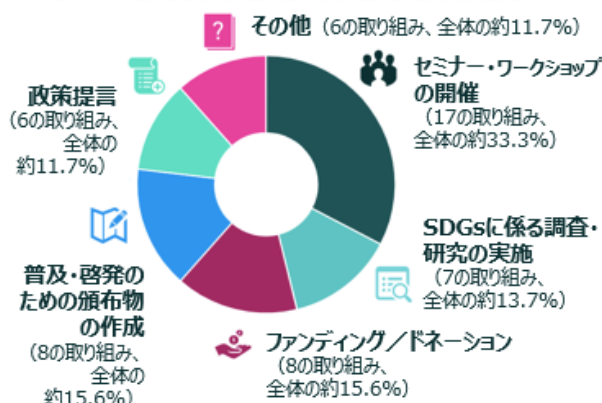
# 15

**の国・法域において取り組みを実施**

### 取り組みの内訳

SDGsに係る取り組みの分類として、SDGsワーキンググループは以下の通りをあげていた。

### INITIATIVE CATEGORIES



### WHAT'S COMMON

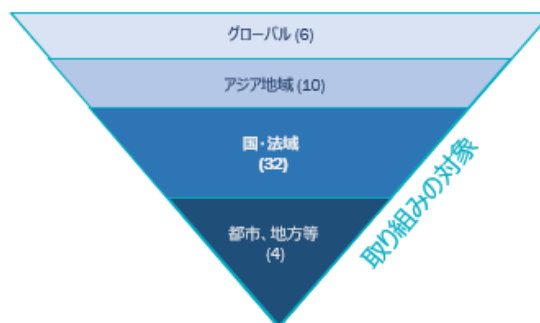
## COMPARING INITIATIVE TYPES

ASFメンバーのレベルで多くの取り組みを実施



39の取り組みはメンバー機関の取り組み。全体の約76%

(その他、12はASFメンバーの会員会社の取り組み、1つは政府の取り組みの紹介があった。)



### 貢献しているSDGs



**ASF の概要**

会議名	アジア証券人フォーラム Asia Securities Forum (ASF)																																								
設立目的	アジア太平洋地域の証券業界の意見・情報交換、同地域の証券市場の発展と経済成長への寄与																																								
設立時期	1995年(本協会の提唱により設立)																																								
参加者	<p>アジア太平洋地域の証券業協会の代表者等が出席 (メンバー団体)26機関</p> <table> <tr> <td>アジア</td> <td>アジア証券業金融市場協会 (ASIFMA) 国際資本市場協会 (ICMA) アジア太平洋地域事務所</td> </tr> <tr> <td>豪州</td> <td>豪州金融市場協会 (AFMA) 証券・金融助言業協会 (SAFAA)</td> </tr> <tr> <td>中国</td> <td>中国証券業協会 (SAC)</td> </tr> <tr> <td>台湾</td> <td>台湾証券業協会 (CTSA)</td> </tr> <tr> <td>香港</td> <td>香港証券業協会 (HKSA)</td> </tr> <tr> <td>インド</td> <td>インド証券取引所参加者協会 (ANMI) ボンベイ証券取引所参加者協会 (BBF)</td> </tr> <tr> <td>インドネシア</td> <td>インドネシア証券業協会 (APEI)</td> </tr> <tr> <td>イラン</td> <td>イラン証券取引仲介者協会 (SEBA) <u>イラン機関投資家協会 (IIIA) (新規加入)</u></td> </tr> <tr> <td>日本</td> <td>日本証券業協会 (JSDA)</td> </tr> <tr> <td>韓国</td> <td>韓国金融投資協会 (KOFIA)</td> </tr> <tr> <td>マレーシア</td> <td>マレーシア証券業協会 (ASCM)</td> </tr> <tr> <td>モンゴル</td> <td>モンゴル証券業協会 (MASD)</td> </tr> <tr> <td>ニュージーランド</td> <td>ニュージーランド金融市場協会 (NZFMA)</td> </tr> <tr> <td>フィリピン</td> <td>フィリピン証券業協会 (PASBDI)</td> </tr> <tr> <td>ロシア</td> <td>ロシア全国金融協会 (NFA)</td> </tr> <tr> <td>シンガポール</td> <td>シンガポール証券業協会 (SAS)</td> </tr> <tr> <td>スリランカ</td> <td>コロンボ証券仲介者協会 (CSBA)</td> </tr> <tr> <td>タイ</td> <td>タイ証券業協会 (ASCO) タイ債券市場協会 (ThaiBMA)</td> </tr> <tr> <td>トルコ</td> <td>トルコ資本市場協会 (TCMA)</td> </tr> <tr> <td>ベトナム</td> <td>ベトナム証券業協会 (VASB)</td> </tr> </table>	アジア	アジア証券業金融市場協会 (ASIFMA) 国際資本市場協会 (ICMA) アジア太平洋地域事務所	豪州	豪州金融市場協会 (AFMA) 証券・金融助言業協会 (SAFAA)	中国	中国証券業協会 (SAC)	台湾	台湾証券業協会 (CTSA)	香港	香港証券業協会 (HKSA)	インド	インド証券取引所参加者協会 (ANMI) ボンベイ証券取引所参加者協会 (BBF)	インドネシア	インドネシア証券業協会 (APEI)	イラン	イラン証券取引仲介者協会 (SEBA) <u>イラン機関投資家協会 (IIIA) (新規加入)</u>	日本	日本証券業協会 (JSDA)	韓国	韓国金融投資協会 (KOFIA)	マレーシア	マレーシア証券業協会 (ASCM)	モンゴル	モンゴル証券業協会 (MASD)	ニュージーランド	ニュージーランド金融市場協会 (NZFMA)	フィリピン	フィリピン証券業協会 (PASBDI)	ロシア	ロシア全国金融協会 (NFA)	シンガポール	シンガポール証券業協会 (SAS)	スリランカ	コロンボ証券仲介者協会 (CSBA)	タイ	タイ証券業協会 (ASCO) タイ債券市場協会 (ThaiBMA)	トルコ	トルコ資本市場協会 (TCMA)	ベトナム	ベトナム証券業協会 (VASB)
アジア	アジア証券業金融市場協会 (ASIFMA) 国際資本市場協会 (ICMA) アジア太平洋地域事務所																																								
豪州	豪州金融市場協会 (AFMA) 証券・金融助言業協会 (SAFAA)																																								
中国	中国証券業協会 (SAC)																																								
台湾	台湾証券業協会 (CTSA)																																								
香港	香港証券業協会 (HKSA)																																								
インド	インド証券取引所参加者協会 (ANMI) ボンベイ証券取引所参加者協会 (BBF)																																								
インドネシア	インドネシア証券業協会 (APEI)																																								
イラン	イラン証券取引仲介者協会 (SEBA) <u>イラン機関投資家協会 (IIIA) (新規加入)</u>																																								
日本	日本証券業協会 (JSDA)																																								
韓国	韓国金融投資協会 (KOFIA)																																								
マレーシア	マレーシア証券業協会 (ASCM)																																								
モンゴル	モンゴル証券業協会 (MASD)																																								
ニュージーランド	ニュージーランド金融市場協会 (NZFMA)																																								
フィリピン	フィリピン証券業協会 (PASBDI)																																								
ロシア	ロシア全国金融協会 (NFA)																																								
シンガポール	シンガポール証券業協会 (SAS)																																								
スリランカ	コロンボ証券仲介者協会 (CSBA)																																								
タイ	タイ証券業協会 (ASCO) タイ債券市場協会 (ThaiBMA)																																								
トルコ	トルコ資本市場協会 (TCMA)																																								
ベトナム	ベトナム証券業協会 (VASB)																																								



ベトナム債券市場協会 (VBMA)	
年次会合	毎年、各国持ち回りで、3日間(事前会合を含む)にわたって開催。内容は、主催者が基本的なテーマを定め、ホスト国のゲストスピーカーによる基本テーマに沿った基調講演、各国報告及びパネル・ディスカッションから構成される。各パネル・ディスカッションでは、パネリストがそれぞれのテーマについてプレゼンを行った後、参加者全員で意見交換を行う。2020年度はコロナによる影響を踏まえ、オンラインによる開催。本協会は、3年に1回程度日本で開催する旨第一回会合時に申し出ている。
会議の目的	情報交換・意見交換及びメンバー間の親睦
事務局	日本証券業協会が常設事務局を務めており、主催者と協力して会議を運営
費用	年会費無し
ウェブサイト	<a href="http://www.asiasecuritiesforum.org/index.php">http://www.asiasecuritiesforum.org/index.php</a>
ASF セミナー	本協会の提唱により、2006年3月から「アジア証券人フォーラム(ASF)セミナー(2010年よりアジア証券人フォーラム(ASF)東京ラウンドテーブルとセミナーの名称を変更)」を開催している。 本セミナーは、アジア諸国における証券市場の発展と自主規制機関の育成を支援することを主たる目的として、アジア諸国の証券市場の自主規制機関等から研修生を招き、本協会が主催している。 本セミナーにおいては、我が国の証券規制及び証券市場の枠組みについて、本協会、規制当局、取引所、証券会社等による研修が行われる。

### **ASF の開催地**

		2010年	中国	北京	
1995年	日本	東京	2011年	日本	大阪
1996年	韓国	ソウル	2012年	インド	ムンバイ
1997年	フィリピン	マニラ	2013年	台湾	台北
1998年	日本	神戸	2014年	タイ	バンコク
1999年	台湾	台北	2015年	韓国	ソウル
2000年	日本	東京	2016年	フィリピン	マニラ
2001年	タイ	バンコク	2017年	日本	東京
2002年	中国	北京	2018年	インドネシア	バリ
2004年	インドネシア	バリ	2019年	トルコ	イスタンブール
2005年	日本	京都			
2006年	韓国	ソウル			
2007年	フィリピン	セブ			
2008年	香港	香港			
2009年	オーストラリア	シドニー			